

委託事業実施内容報告書

平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 多文化共生センター大阪

1. 事業名称

定住外国人のための「生活の漢字」学習支援

2. 事業の目的

日本に定住する予定の外国人、または既に地域に根ざしている外国人を対象に、日常生活において必要な漢字を認識し、自律学習の習慣を身につけてもらうこと(教室設置)、漢字学習支援者の養成(ボランティア養成講座)、漢字学習教材のデジタル化(教材作成)を事業目標とする。

留学生とは異なり、いわゆる「生活者としての外国人」と呼ばれる外国人住民は、日本語を生活の中で身につけているケースが多い。そのような形で身につけた日本語の音声言語に文字言語を加えることによって、意味は知っていながらも文字としては認識できなかった語彙、特に漢字語彙が読めるようになることを目指す。また、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案に文字言語の視点を加えた案を作ることを視野に入れた取り組みとする。

3. 事業内容の概要

日本での永住も視野に入れ地域に定住する外国人、特に、子育て中の人も含む日本人配偶者等を対象に、託児環境を整備し、子連れでも参加しやすいようにする。開催する教室では、日本で生活を送る上で必要な漢字語彙に加え、子育て世代が必要な漢字語彙も取り上げる。そのためのオリジナル教材を開発し、基礎編をデジタルコンテンツ化し広く配布する。また、パソコンを使って漢字を学習するための方法を模索し、それを実践するボランティアの養成を行う。さらに、受講者が講座終了後も引き続き漢字を学習していけるように、漢字の体系を知るなど、自律的な学習能力を養成するプログラムを組み入れる。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	4月29日 (木) 17:00～ 19:30	2時 間半	梅田サイゼリ ア	永井慧子 新庄あいみ 新矢麻紀子 御子神慶子	事業開始準備	1. チラシ作成に関して(養成講座・漢字教室のそれぞれのチラシの内容・作業予定・送付先決定・ラベル確認・送付状作成) 印刷枚数 講座・漢字教室各2000枚 色 ブルーとピンク 送付枚数 各宛先10枚～20枚 多文化50枚 総合生涯学習センター100枚 各自20～50枚 郵送先41(大阪周辺市国際交流センター他) メール便(大阪市内識字日本語教室・図書館等。 市立総合生涯学習センターさんに他の郵便物と いっしょに送っていただく)81 送付先リスト・ラベル 2. 申し込み受付・受講者決定・通知に関して(大阪市立総合生涯学習センターに窓口を依頼、ファクスによる受付、はがきによる通知) 3. 養成講座に関して(担当日・テーマ決定)→予定表に記入 4. 漢字教室に関して(テーマの検討・評価方法の検討)

2	5月10日 (土) 9:30～ 13:00	3時 間半	大阪市立総合生涯学習センター	岡本和夫 山本稔 野村京美 中村満寿央 永井慧子 新庄あいみ 川島孝子 御子神慶子	事業内容検討・事業開始にあつての全運営委員による会議	1. 事業運営に関する会議(9:30～11:00,12:00～13:00) 出席:永井、新庄、川島、御子神 1)事業開始にあつての全体運営委員会について(式次第と説明内容確認、配布資料準備) 2)漢字教室に関して 担当日・テーマ検討(テーマ最終決定には標準カリキュラム及び受講者のニーズ等を考慮する)→予定表に記入 評価方法検討(ポートフォリオの考え方を取り入れる) 3)保育に関して(昨年度同様に育ていろいろ相談センターさんに一時保育を依頼する→御子神担当) 4)会計に関して(予算・帳簿・謝金の支払い・立替金等→川島担当) 2. 全運営委員による会議(11:00～12:00) 1)あいさつ ・多文化共生センター大阪 中村理事 2)出席者8名自己紹介 3)本年度の事業について ・事業内容説明 ・大阪市立総合生涯学習センターへの事業説明・協力依頼(申し込み受け付け・チラシ配布・教室確保・広報) ・質疑応答
3	6月13日 (金) 9:30～ 12:00	2時 間半	大阪市立総合生涯学習センター	新矢、御子神、川島、新庄、永井	講座・教室開始準備	1. 申し込み状況について ・ハガキ発送 2. 能力評価について(作成:新庄) ・向井先生から頂いた評価資料(診断テスト)を検討 ・字体は教科書体で。 ・漢字能力評価内容 3. 漢字教室 第1回目内容 4. 養成講座 第1回目内容 5. 保育の連絡(御子神さん) 子供6名(1歳児3名、2歳児3名) 6. 漢字教室の内容 ・漢字授業 ・漢字書き練習の集中時間、質問タイム ・テーマ決定 ・問診票 7. ポートフォリオを実施する。毎回ファイリングする。 *ポートフォリオ内容1)日付 2)テーマ 3)勉強したこと(線を入れる) 8. 買い物リスト(川島さん、御子神さん) ・CDROM ・紙ファイル 9. 立替金 ・7月9日(水)一人5万円 10. 出席簿作成 ・川島さん ・データを御子神さんから川島さんへ送る

4	9月10日 (水) 9:20～ 12:00	2時 間半	大阪産業大 学梅田サテラ イト	永井慧子 新矢麻紀子 新庄あいみ 川島孝子 御子神慶子	文化庁発表の相談 漢字教室・養成講座の現状と問 題点	1. 文化庁日本語教育研究協議会(大阪)ポスターセッションでの発表について 1) 地域と関連した場に繋がる ・多文化外国人母子の生活支援モデル事業の親子教室(出来島で漢字教室第1回)→平成26年度出来島小学校漢字教室継続 ・多文化就職に役立つ日本語3回シリーズ ・大阪市立総合生涯学習センター「日本語ボランティア養成講座」 ・見学者、出張講座(H22～) ・大阪市民民局人権企画課田中さん「(仮称)外国籍住民施策ガイドブック」作成に向けて ・浅香日本語識字教室講師 2) 自律して学習することができるようになることという目標達成について ・最終のアンケートを参考にする ・受講者の例 3) 上記をパワーポイントにまとめる。 4) 展示物:『生活の漢字』、テーマ一覧、使用教材の見本 5) パンフレット掲載原稿の作成 2. 漢字教室について 1) パソコンではない教室でひらがながおぼつかない人・ベーシックストロークができていない人への対応。 ・補助者が気をつけてサポートする。 ・漢字練習時に語の読み方も書くようにする。 ・ひらがなが書けない人に練習用紙などを渡してケアする。 3. 養成講座について 1) Aグループ・Bグループはいい感じに進んでいる。Cグループはアドバイスにあまり耳を傾けない。Dグループは1名がうまく参加できていない。 2) グループ活動やボランティア活動の姿勢についてこれまでの回に取り上げていない。受講者はどちらかというと漢字を教えるテクニックに目が行っている。 3) 養成講座の教材発表に漢字教室の受講者に参加してもらおうとよいのではないかな。漢字教室でアナウンスする。 4. 会計について報告
5	12月19日(金) 13:00～ 16:00	3時 間	大阪産業大 学梅田サテラ イト	永井慧子 新矢麻紀子 新庄あいみ 川島孝子 御子神慶子	漢字教室、養成講座ふり返り、教材作成打ち合わせ	●会計の確認 ●ふりかえり 漢字教室 ・受講生の漢字についての知識差が大きくあったので、全員に満足できるような授業はできなかったように思う。 ・「もっと書きたい」という受講生が多かった。 ・3時間のクラスは長過ぎた。 ・PCの操作になれない人は操作に時間がかかってしまった。 ・CDROMはトラブルが多かったので、次回あるならば各自にメディアは持ってきてもらうようにしたい。 ・ベーシックストロークは折に触れてやらないといけない。 養成講座 ・自分の聞きたい箇所は聞けが、必要ないと判断したところは聞かないという受講者が目立ったのは残念だった。 ・要望が出た場所へ出前講座に行くというのもよいかもしれない。夜中など。 ●能力評価シートの比較 ・向上が見られた。 ・ひらがな、特にカタカナがきちんと習得できていない人がいる。 ・発音をもう少し練習したほうがいい。 ・今回の結果を見ると書けない人が多かった。教室は読めることを第一にしている。書けることも目標に入れるか ・文を書くことを増やすのもよいと思われる。 ●デジタル教材試作版の検討

6	2月21日 (土) 9:30～ 12:00	2時 間半	大阪市立総 合生涯学習 センター	野村京美 中村満寿央 永井慧子 新庄あいみ 新矢麻紀子 川島孝子 御子神慶子	事業報告 教材検討	1. 漢字教室報告 受講者が最後まで継続して参加した。 楽しく勉強できること、生活に役に立つこと、パソ コンの使用がその理由と考える。 2. 養成講座報告 生活の漢字のコンセプトを学べたという感想が多 かったが、より必要な支援者に届くように新しい形 式を考えたい。周知については大阪市立総合生 涯学習センターから協力の申し出をいただいた。 3. 教材作成報告 今年度の新しい試みとして生活の漢字の1レッス ンをアプリにした。来年度試用予定。 4. 会計報告 ほぼ予算通り消化した。2,688円の赤字。 5. 最終運営委員会までに教材を完成するため、 内容について検討した。
7	2月27日 (金) 9:30 ～12:00	2時 間半	大阪市立総 合生涯学習 センター	永井慧子 新庄あいみ 川島孝子 御子神慶子	教材編集 ふり返し	報告内容検討、報告書修正 提出教材検討、修正 ふり返し 今年度の事業体制について、事業を担う人材の 養成の必要を感じる。来年度は指導者を担える人 を育てたい。

5. 日本語教育の実施

- (1) 講座名称 外国人のための「生活の漢字」教室 ～パソコンで楽しく漢字を学ぼう～
 (2) 目的・目標

日常生活において必要な漢字を認識すること、また自律して学習することができるようになることを目標とする。
 留学生とは異なり、いわゆる「生活者としての外国人」とよばれる外国人住民は、日本語を生活の中で身につけているケースが多い。そのような形で身につけた日本語などの音声言語に文字言語を加えることによって、意味は知っていながらも文字としては認識できなかった語彙、特に漢字語彙が読めるようになることを目指す。

- (3) 対象者・漢字の読み書きを習得したいと思っている者
 ・ひらがなとカタカナの読み書きがある程度できる者
 ・簡単な日本語の会話ができる者
 ・大阪市主催の「基礎レベルの日本語教室」を修了した者など
 ・保育が必要な者も含む

(4) 開催時間数(回数) 3 時間 (全 20 回)

(5) 使用した教材・リソース

『生活の漢字』(H20年度文化庁地域日本語教育支援事業「日本語教材作成」で作成したテキスト)、『新にほんごく生活の漢字』漢字みつけた(アルク)、その他自主教材

- (6) 受講者の総数 20人
 出身・国籍別内訳

中国	1人	インドネシア	人	メキシコ2、アルゼンチン1、ナイジェリア1、ニュージーランド1
韓国	3人	タイ	2人	
ブラジル	人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	9人	
ネパール	人	日本	人	

- (7) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成26年7月9日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	22	韓国5、フィリピン9、台湾1、中国2、ニュージーランド1、メキシコ2、タイ1、アルゼンチン1	開講式	・開講式 1) 主催者、協力者挨拶 2) 講師挨拶 3) 講座スタッフ自己紹介 4) 受講者自己紹介 5) 講座についての紹介 ・レベルチェック ・第1回 かんじにかえる のファイルを開き、入力とルビの打ち方を確認する。 ・パソコンに、五十音表を見ながらひらがなとカタカナを打ち込む。 ・その間に、受講者へのインタビューを行う	新庄	川島、新矢、御子神
2	平成26年7月16日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	19	韓国3、フィリピン8、台湾1、中国2、ニュージーランド1、メキシコ2、スペイン1、タイ1	カレンダー	1. 漢字のためのカタカナ復習 2. カレンダー パソコンで見る(月、日、曜日、年)書く (一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、月、日、火、水、木、金、土、年) わたしの誕生日は11月3日です。 旧暦、大安	御子神	川島、オーラヌット、永井

3	平成26年7月23日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	17	韓国3、フィリピン7、台湾1、中国2、ニュージーランド1、メキシコ2、スペイン1	市役所・区役所	1. 市役所と区役所の区別について説明 2. 市役所・区役所で何をするかを説明 3. パソコンに漢字を打ち込む (市役所、区役所、引越、ゴミ、届を出す、知らせる、国民健康保険、加入、結婚、出産、児童手当、死亡) 4. 漢字書く練習(市役所、区役所、引越、届出、手当、死亡、国民、出産)	張	川島、オーラヌット、新庄
4	平成26年7月30日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	18	韓国3、フィリピン7、台湾2、中国2、ニュージーランド1、メキシコ2、スペイン1	市役所・区役所	1. 先週の復習 2. 市役所・区役所の案内表 3. 引越するときの手続き 4. 届出と証明書の違い 5. パソコンに漢字を打ち込む(市役所、区役所、届出、証明、転入、転出、転居、印鑑証明、発券機、表示、交付)	張	川島、オーラヌット、新矢
5	平成26年8月6日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センター第3研修室	21	韓国3、フィリピン9、台湾1、中国2、ニュージーランド1、メキシコ2、アルゼンチン1、ナイジェリア1、タイ1	ベーシックストローク	漢字のベーシックストロークの説明と書き練習	新庄	張、オーラヌット、永井
6	平成26年8月20日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	18	韓国3、フィリピン6、台湾1、中国1、ニュージーランド1、メキシコ2、アルゼンチン1、ナイジェリア1、タイ2	駅	駅、駅名、路線の読み方の説明、環状線、地下鉄の駅名確認、駅内の表示の読みと説明	新庄	川島、オーラヌット、永井
7	平成26年8月27日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	16	韓国2、フィリピン7、台湾1、中国1、メキシコ2、アルゼンチン1、ナイジェリア1、タイ1	買い物1	店の名前(本、花、米、酒など)、店に表示(営業中、準備中、定休日など)、スーパーの案内図	新庄	川島、オーラヌット、張

8	平成26年9月3日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センター 第3研修室	19	韓国2、フィリピン10、台湾1、中国1、メキシコ1、アルゼンチン1、ナイジェリア1、タイ2	習った漢字を整理しよう	1. 部首 2. 読み方のまとめ、音読みと訓読み 3. 漢字の意味 4. 漢字語の構成	御子神	新矢、張、オーラヌット
9	平成26年9月10日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	20	韓国3、フィリピン10、中国1、メキシコ2、アルゼンチン1、ナイジェリア1、タイ2	買い物2	スーパーの食品表示	新庄	川島、オーラヌット、御子神
10	平成26年9月17日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	19	韓国3、フィリピン9、中国1、メキシコ1、アルゼンチン1、ナイジェリア1、タイ2、ニュージーランド1	入国管理局1	在留カードの見方、在留期間更新、在留カード再申請、入管に行くときに必要なものについて	張	川島、オーラヌット、御子神
11	平成26年9月24日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	17	韓国3、フィリピン8、メキシコ1、アルゼンチン1、ナイジェリア1、タイ1、ニュージーランド1	入国管理局2	在留カード再交付申請書の見方、在留カード申請書の入力、在留期間更新申請書の見方について	張	川島、オーラヌット、御子神
12	平成26年10月1日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センター 第3研修室	20	韓国3、中1、フィリピン10、メキシコ2、アルゼンチン1、ナイジェリア1、タイ1、ニュージーランド1	住所を書く	都道府県、市、区、町、号、様の練習、各自の住所を書く練習、在留カード再交付申請書の用紙に自分の氏名と住所を書く	新庄	オーラヌット、永井、御子神
13	平成26年10月8日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	18	韓国3、中1、フィリピン7、メキシコ2、アルゼンチン1、ナイジェリア1、タイ2、ニュージーランド1	学校	日本の学校制度についての説明、日本の学校区分、学校の表示、時間割の読み方	新庄	オーラヌット、永井、川島

14	平成26年10月15日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	17	韓国3、中1、フィリピン8、メキシコ2、ナイジェリア1、タイ1、ニュージーランド1	学校2 お便り	「非常災害時の対応について」(実際のお便り)に書かれている言葉と内容(「保存版」「保護者」「記」、学校名、校長名、あいさつ文など) 「災害時の対応」、その他災害に関する情報警報(台風、大雨、暴風など)	御子神	川島、オーラヌット、新矢
15	平成26年10月22日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	20	韓国3、中1、フィリピン9、メキシコ2、ナイジェリア1、タイ2、ニュージーランド1、アルゼンチン1	銀行1	銀行と銀行名、通帳、ATMのできる取引、手数料	御子神	川島、オーラヌット、永井
16	平成26年10月29日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	16	韓国2、中1、フィリピン6、メキシコ2、ナイジェリア1、タイ2、ニュージーランド1、アルゼンチン1	銀行2 ATM	ATMの操作(引出し、振り込み)のことば 画面の表示を順を追って読む	御子神	川島、オーラヌット、新矢
17	平成26年11月5日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センター第3研修室	15	韓国2、中1、フィリピン6、メキシコ2、ナイジェリア1、タイ1、ニュージーランド1、アルゼンチン1	文を書こう	私の家族、京都に行きたいです。●●が好きです。季節の4つのトピックから2つのトピックを選び、モデル作文にならって作文する。必要な漢字を学ぶ	新庄	川島、オーラヌット、永井
18	平成26年11月12日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	19	韓国2、中1、フィリピン9、メキシコ2、ナイジェリア1、タイ2、ニュージーランド1、アルゼンチン1	病院	病院、診療所、医院、クリニック 内科、外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、小児科、産婦人科、眼科、歯科 診療日、診療時間、診療科、休診日、祝日、祭日 問診票のことば	御子神	川島、オーラヌット、新矢
19	平成26年11月19日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	18	韓国2、中1、フィリピン9、メキシコ2、ナイジェリア1、タイ2、ニュージーランド1	問診票、薬	問診票を読む 薬の袋や市販薬の箱の漢字を読む	御子神	川島、永井、新庄

20	平成26年11月26日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センター 第3研修室	18	韓国2、中1、フィリピン9、メキシコ2、ナイジェリア1、タイ1、ニュージーランド1、アルゼンチン	修了式	能力評価シート、アンケート記入、修了式	新庄	川島、オーラヌット、新矢
----	----------------------------	-----	----------------------	----	--	-----	---------------------	----	--------------

(8) 受講者の募集方法

市が主催する「基礎レベルの日本語教室」などで配布した。大阪市立総合生涯学習センター、および多文化共生センター大阪のホームページに掲載した。なお、各機関のHPは次の通りである。多文化共生センター大阪HP (<http://www.tabunka.jp/osaka/>)、大阪市立総合生涯学習センターHP (<http://osakademanabu.com/umeda/>)

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

第12回(10月1日)「住所を書く」 新庄あいみ

漢字教室では、基本的に漢字を読むことを第一の目標としている。しかし、書くことが生活の様々な場面で求められる「住所」だけは書けることを目標としている。そのため、プリントは、「都道府県」や「市区町」といった住所に使う基本的な漢字のほかに各学習者の名前と住所を書くための練習プリントを作成した。大阪府や大阪市までは簡単に書けていた学習者たちも、例えば「天満」の「満」や「日本橋」の「橋」、神戸から来ている学習者は「灘」などを書く際には苦心していた。しかし、何度も練習するうちに見本がなくても書けるようになり、最終目標だった入国管理局の書類の住所欄(欄が狭いので書きにくい)に自分の住所を書き終えたときは歓声があがった。3時間という授業時間なので、どの学習者も最後は疲れた様子だったが、「はじめて自分で住所を書くことができました。とてもうれしい」と話す学習者の笑顔が印象的だった。

第18回(11月12日)「病院・問診票」 御子神慶子

「標準カリキュラム」にも病院が取り上げられているように生活に必要な場面である。「医院」「診療所」「クリニック」「病院」など病院の意味を表す語や、「内科」「外科」「耳鼻咽喉科」「眼科」「皮膚科」「小児科」などの診療科目を表す語を漢字で認識できるようになり、住まいの周辺の病院がわかるようになることを目指した。また、「かぜをひいた」「けがをした」「目/耳/歯がいたい」「こどもがびょうきだ」「こどもがうまれる」「こしやひざがいたい」「ぶつぶつができた」などの症状と、そのときに行く診療科名を結びつけた。

休日急病診療所についても取り上げ、診療科目と「日曜・祝日・年末年始」にやっているということを勉強した。特に小さい子どもがいる参加者にとって知リたかった情報だったようだ。

最後に、インターネットの多言語医療問診票のサイトを紹介した。その中の内科問診票を例に、各国語と日本語を対照しながら、自分が病院に行ったときの経験を思い出して、問診票を書いてみた。第19回には、日本語だけの問診票の記入に挑戦した。

(10) 目標の達成状況・成果

本講座は、日常生活において必要な漢字を認識することができること、および、より多くの漢字を獲得するための自律的学習能力の養成、という2つのことを学習目標としている。講座の修了式で出席した受講者18名全員と欠席者1名の計19名にアンケート調査を実施し、その結果から当初の学習目標の達成状況を次の通りに報告する。。さらに、本講座の受講生のうち1名が多文化共生センターが主催した就職セミナーに参加し、とある企業に就職することができた。講座で住所の書き方などを練習したことが履歴書作成に繋がったという。以上を鑑み、本講座の目標はある程度達成できたと思われる。なお、アンケート結果の集計については、別途添付する。

(11) 改善点について

- ・受講生の漢字についての知識差が大きくあったので、全員に満足できるような授業はできなかったように思う。
- ・「もっと書きたい」という受講生が多かった。練習の時間として、「書く」時間を増やすのもよいかもしれない。「読む」については、他にも「次の段階のクラスを」という声があったので、もう少し踏み込んだ内容の講座が必要である。
- ・3時間のクラスは長過ぎた。
- ・PCの操作になれない人は操作に時間がかかってしまった。
- ・CDROMはトラブルが多かったので、次回あるならば各自にメディアは持ってきてもらうようにしたい。
- ・ベーシックストロークは折に触れてやらないと身につかない。
- ・1名のみ「勉強の続け方がわからない」と回答した受講生がいた。こういう感想を持つ学習者に対応するために、受講途中でアンケートを実施することも良いと思う。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

- (1) 講座名称 「生活の漢字」学習支援者養成講座
- (2) 目的・目標 外国人のための「生活の漢字」学習支援者を養成する。
- (3) 対象者 日本語教室等でボランティアをしている人、したい人。
- (4) 開催時間数(回数) 3 時間 (全 10 回)
- (5) 使用した教材・リソース オリジナル教材
- (6) 受講者の総数 18人

出身・国籍別内訳

中国	人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	18人	

(7) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成26年7月5日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センター第4研修室	18名	日本国籍(18)	外国人と文字学習	1.日本に暮らす外国人の現状 2. 外国人への日本語教育・学習支援 1)外国人と日本語 2)日本語教育・学習支援の現状 3)「生活者としての外国人」と日本語学習 4)外国人に対する文字学習支援 5)日本における移民政策・言語政策の課題	新矢	川島、永井
2	平成26年7月12日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センター第4研修室	18名	日本国籍(18)	漢字学習のシラバスを考える	1. シラバス どの漢字をどの順に勉強するか。 2. 「楽」しく、「楽」に 1)漢字の数 表音文字は文字数が少ない 2)「覚える」助け 漢字の中に知っている形をさがす。 漢字を切る。 ベーシックストロークとそれが学べる漢字ストーリーを作る	御子神	川島、新庄
3	平成26年7月19日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センター第4研修室	18	日本国籍(18)	漢字の体系化	・生活者のための漢字学習支援の心がまえ ・漢字テキスト分析 ○漢字の基礎知識 1)漢字の体系化 形	新庄	川島、新矢
4	平成26年7月26日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	16	日本国籍(16)	パソコンを活用した漢字学習支援	1. 「勉強する→覚える→使う」から「見る→わかる→使う→覚える」へ(漢字学習のスタートと継続) 2. パソコンで漢字を学ぶ利点 3. 実際の教材を見てみる(銀行・学校) 4. 教材作成のためのグループでの話し合い(テーマ決定、準備、予定)	御子神	川島、新庄
5	平成26年7～9月 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センター			漢字教室見学	各受講者2回の見学。できればパソコン教室とそうでない教室を1回ずつ見学する。	漢字教室講師	漢字教室補助者
6	平成27年7～9月 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室			漢字教室見学		漢字教室講師	漢字教室補助者

7	平成26年9月6日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	13名	日本国籍	教材作成1	1. 教材を作成するために 2. ミニ教材を作ってみよう 3. 便利なサイトの紹介(文化庁など) 4. 教材作成	新庄	川島、永井
8	平成26年9月13日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	11名	日本国籍	教材作成2	教材完成、グループごとに試写 A 環状線で観光 B 冷凍食品の表示 C 大阪から京都へJRで行く D ホームセンター 発表準備(発表順序決定、概要作成) 20日 B→A→C 27日 D	御子神	川島、永井
9	平成26年9月20日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	13名	日本国籍	教材発表1	教材発表、グループ同士コメント、講師よりフィードバック 1. Bグループ 冷凍食品のアレルギー表示 2名のグループでコンパクトに作っていた。ぎょうざ、皿ちゃんぽん。 2. Aグループ「大阪わくわく探検隊」お得意に大阪観光大阪周遊パスのパンフレットをもとに。実際のパスも購入していた。文字入りの写真を撮って来ていた。 量が多いがなかなかの力作。 文化庁のカリキュラム案紹介。(生活を楽しむ) 3. Cグループ JRに乗って大阪から京都へ行く日本人は当たり前と思っていることかもしれないけれど、という視点で丁寧に作っていた。終着駅の写真が「中央口」という漢字を優先して大阪駅だったのが残念。グーグル画像検索紹介。 他のグループの人から活発にコメントが出た。	御子神	川島、永井
10	平成26年9月27日 13:30～16:30	3時間	大阪市立総合生涯学習センターメディア研修室	12名	日本国籍	教材発表2 まとめ・振り返り	教材発表 Dグループ ホームセンター 会話を作っていた。風景の中の漢字という視点が少し足りなかった。 グループでの話し合い グループ活動の振り返り、今後の活動にどう生かすか、ボランティア活動で大切なこと、講座の振り返り リソース紹介 『漢字みつけた』 NEWS他のホームページ	御子神	川島、永井

(8) 受講者の募集方法

市が主催する「基礎レベルの日本語教室」などで配布した。大阪市立総合生涯学習センター、および多文化共生センター大阪のホームページに掲載した。なお、各機関のHPは次の通りである。多文化共生センター大阪HP (<http://www.tabunka.jp/osaka/>)、大阪市立総合生涯学習センターHP (<http://osakademanabu.com/umeda/>)

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

第2回7月12日「漢字学習のシラバスを考える」御子神

非漢字系の大人の学習者と勉強するとき、どんな漢字を勉強するか、どんな順序で勉強するか、グループで話し合って発表した。「生活者」として必要な漢字から学習すること、すなわち身の周りで目にする漢字、生活上必要なことを遂行するのに必要な漢字から学ぶのがよい。小学校で学ぶ順に学んでいると、到底辿り着かない漢字でも、「生活の漢字シラバス」でなら、すぐ学べ、すぐ使える。シラバスが決まったら、楽しく、楽に、学ぶ方法を考えよう。

受講者が作成した教材例を添付する。

(10) 目標の達成状況・成果

本講座の目的・目標は「日本に住んでいる外国人のための漢字学習支援者を養成する」である。講座では教材作成を行った第7回・第8回以外、毎回「ふりかえりシート」を記入してもらい、その日の学びについて振り返ってもらった。毎回の振り返りによって受講者は学びを意識化できた。講師にとっても講座内容を改善するための示唆となった。シートの記述内容から、当初の学習目標の達成状況を次の通りに報告する。

- ・生活の漢字のコンセプト・シラバスについて理解してもらえた。
- ・外国人学習者のニーズに気づいてもらえた。
- ・PCや写真を使う理由と使い方を知ってもらえた。
- ・「ベーシック・ストローク」「漢字を切る」「ストーリーを作る」等漢字学習の方法を知ってもらえた。
- ・グループ活動によって参加者同士が情報交換や意見交換ができた。
- ・漢字教材を作って、作成の実際の手順を把握してもらえた。完成した教材を発表してもらい、お互いにコメントし合えた以上を鑑み、本講座の目標はある程度達成できたと思われる。

(11) 改善点について

- ・グループ作業はおおむね協力的に行われていたが、欠席した人や意見が違う人に寛容でないグループがあった。グループ活動についてどのように進めるべきかを最初に全員でシェアするべきであった。
- ・自分の聞きたい箇所は聞けが、必要ないと判断したところは聞かないという受講者もいたのは残念だった。養成講座の希望がある所へ出前講座に行くというのもしよかもしれない。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称 日本に住んでいる外国人のための漢字教材および電子書籍版(基礎編)の作成

(2) 対象 漢字を学びたいと思う定住外国人

(3) 目的・目標 日本に住んでいる外国人のための漢字教材を作成する。

(4) 構成・総ページ数

標準カリキュラムに関連した8テーマ。(カレンダー・問診票・路線図・科目・お便り・住所・市役所・入国管理局)

各テーマについて漢字の言葉がある場面を写真で示し、言葉を抜き出す。最後に、書く練習用のページを入れる。

総ページ数76ページ、他に目次を付す。

また、端末で持ち歩けるようにデジタルコンテンツ作成を依頼。パイロット版として1課分完成。

<http://www.tabunka.jp/appli/kanji>

(5) 教材作成会議の開催について

(6) 使い方 支援者といっしょに使う。①テーマについて経験等を話す。②写真の中の漢字語彙を認識する。③漢字語彙の読み方を知る。読み方がわかると意味がわかる語も多いと思われるが、意味がわからない場合は意味を学ぶ。④形を認識するために書く。⑤教室から出たら、実際の生活の中で学んだ漢字を使う。

(7) 具体的な活用例 地域の日本語教室でグループ毎(ボランティア2名、学習者3名程度)に一つのトピックを取り上げ、それぞれの経験を話し合いながら関連する漢字の認識、また漢字の認識のために漢字を書く練習を行う。漢字教材アプリは個人で空き時間にゲーム感覚で行うという使用方法も考えられる。

活動の想定時間は1時間～2時間程度。

学習者が街で見かけた漢字を学習するときに自宅でテキストを開き、自己学習をすすめる。

(8) 成果物の添付

別途添付する。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

日本に定住する予定の外国人、または既に地域に根ざしている外国人を対象に、日常生活において必要な漢字を認識し、自律学習の習慣を身につけてもらうこと(教室設置)、漢字学習支援者の養成(ボランティア養成講座)、漢字学習教材のデジタル化(教材作成)を事業目標とする。

留学生とは異なり、いわゆる「生活者としての外国人」とよばれる外国人住民は、日本語を生活の中で身につけているケースが多い。そのような形で身につけた日本語の音声言語に文字言語を加えることによって、意味は知っていながらも文字としては認識できなかった語彙、特に漢字語彙が読めるようになることを目指す。また、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案に文字言語の視点を加えた案を作ることを視野に入れた取り組みとする。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

これまで述べてきたとおり、漢字教室及び養成講座の受講生に実施したアンケート結果及び作成した教材から本事業における目標である「日常生活において必要な漢字を認識すること、また自律して学習することができるようになること」また「漢字学習支援者の養成」は達成できたと思われる。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

作成した教材に、標準的なカリキュラム案と関連する項目がある場合はそれを示した。また養成講座にて受講生に紹介し、活用方法を考えた。標準的なカリキュラム案について気づいた点は、標準的なカリキュラムは生活場面について様々なケースが挙げられているので参考になるが、会話の習得が主であり、読み書きについては触れられていない。今後は文字習得の側面においても標準的なカリキュラムを作成する必要があると思われる。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

大阪市立総合生涯学習センターと運営面で連携、協力を得た。大阪市立子育ていろいろ相談センターに保育士の派遣を依頼した。また本事業での実践を活動に取り入れるということで、目黒区多言語絵本の会 RAINBOW 石原弘子氏、大阪大学非常勤 大平幸氏、甲南大学大学院人文科学科 日本語日本文学 大学院生、日本語教室「にほんご・なんば」ボランティア 久保房子氏、北野千晴氏)の見学を受け入れたさらに、地域の別団体との連携という意味で、本講座を修了後に別の日本語教室で継続的に学習ができるように、大阪府下の日本語教室一覧を受講者に配布した。それに加え、授業でインターネットを用い、居住地の近くにある日本語教室の検索の仕方を受講者に紹介した。

(5) 改善点、今後の課題について

漢字教室においては、受講生の漢字についての知識差が大きかったので、全員に満足できるような授業はできなかったように思う。そのためレベル別の講座を設ける必要がある。養成講座においては、知識を学びに参加しただけで実践の場がない、または活用しないという受講生も見られた。必要がある場所に漢字学習支援のノウハウを伝えられる方法で養成講座を開く必要がある。漢字学習教材については、教材アプリの作成ができたので、今後の課題としてアプリを使用した学習者の感想を集めたい。事業全体については、受講生や関係者から得られた意見を活用して事業内容を改善することが迅速にできないことが課題である。受講生においても同様に、昨年度漢字教室に参加していても、数ヶ月間があくと内容を忘れてしまう人も少なくない。自分で学習を続けているものの難しい部分があるという意見もある。このように、今後は単発的な事業ではなく、複数年実施できるような形態が必要ではないかと思う。そして将来的には、諸外国のように、定住外国人が無料か格安で生活のための日本語を学べる公的な教室を望む。特に本事業の漢字教室に参加する学習者は日本人の配偶者が多く、今後も日本に住み続ける予定の人々である。このように日本社会の一員として生活する外国人のために生活に必要な日本語を学ぶ教室が求められていると感じた。

(6) その他参考資料

漢字教室受講者を対象にしたアンケート、教室風景の写真、配布したチラシ(漢字教室、養成講座)を添付する。